

2015年11月24日

## CAPA「2015年 アジア太平洋地域 LCC オブ・ザ・イヤー」を受賞 ～北東アジアのLCCとして初受賞！～

- ・ 「2015年 アジア太平洋地域 LCC オブ・ザ・イヤー」受賞
- ・ 日本を含む北東アジアのLCCとして初受賞

Peach Aviation 株式会社(以下:Peach、代表取締役 CEO:井上 慎一、本社:大阪府)は、このたび、航空業界における独立系シンクタンクであるCAPA Centre for Aviation(以下:CAPA、本部:オーストラリア・シドニー)より、「2015年 アジア太平洋地域 LCC オブ・ザ・イヤー」(2015 Asia Pacific Low Cost Airline of the Year)を受賞しました。CAPA から同賞を受賞するのは、日本を含む北東アジアのLCC(ローコスト航空会社)としては初となります。

CAPA は1990年に設立された航空市場に関する情報・分析およびデータを提供しているアジア太平洋地域における有数の独立系シンクタンクです。

CAPA では、毎年、業界を取り巻く環境が変化する中で、成果だけではなく、それに対応すべくリーダーシップを発揮し、業界をけん引している航空会社、空港を表彰する「CAPA アビエーション・アワード・フォー・エクセレンス」(CAPA Aviation Awards for Excellence)を開催しており、Peach が受賞した「2015年 アジア太平洋地域 LCC オブ・ザ・イヤー」は、アジア・太平洋地域において特にすぐれた実績を残したLCCに贈られるものです。



写真:CAPA 会長のピーター・ハービンソン氏(中央)、Peach 代表取締役 CEO の井上慎一と Peach のアジアチーム

今回の受賞について代表取締役 CEO の井上は「Peach を応援してくださっているすべての皆様に心より感謝申し上げます。Peach は2012年3月の就航から2年1か月での単年度黒字を実現し、誰もが否定的であった日本におけるLCCビジネスモデルが、条件さえ整えば事業として成立することを実証しました。現在では国際線9路線、国内線13路線を運航し日本のお客様だけではなく、韓国、香港、台湾を含むアジアのお客様にご利用いただいております、日本におけるインバウンド旅客の獲得に貢献しております。

このたびの受賞により、Peach はアジア有数の航空会社として認められたこととなります。また、Peach のビジョンである『日本とアジアのかけ橋となる』ことの実現に向けて大きな一歩となったと感慨深いものがあります。Peach は、これからも安全運航に何よりもこだわりながら積極的に路線拡大を進め、お客様にはこれまで以上に新しい形の航空機利用を楽しんでいただけるよう努力を重ねてまいります」と述べています。

<Peachが選定された理由>

- ・日本の新興LCC市場においてPeachが速やかに優位性を確立したこと
- ・ライバル企業が増え続ける厳しい市場環境において、サービスと戦略の革新によって差別化を図ってきたこと
- ・2年連続で黒字を達成していること
- ・LCCモデルが日本市場においても成功できることを証明したこと
- ・本拠地である大阪の関西国際空港において急成長を遂げ、今年8月には日本のLCCとして初めて東京の羽田空港に乗り入れたこと
- ・しばしば地道な手法で、着実な成長を図ってきたこと
- ・財務面・戦略面に加え、市場における認知度の面でも結果を出したこと
- ・日本市場において強力かつ認知度の高いブランドを速やかに確立し、競合他社との差別化に成功したこと
- ・家族旅行では女性が予約の役目を担う場合が多いと見て、女性客をターゲットとする大胆なアプローチを採用、そこから高齢者やビジネス客を含む幅広い顧客層へ訴求してきたこと
- ・航空需要を掘り起こし、日本から近隣の短距離市場への海外日帰り旅行という、従来は考えられなかった利用形態の掘り起こしに成功したこと
- ・革新的な自動チェックイン機を導入したこと
- ・ANAから独立しつつ、コスト削減を追求し、日本にとって新しいタイプの航空会社を育てることができたこと
- ・国内・国際航空需要の回復に貢献しており、日本経済に明らかなメリットをもたらしていること

<過去の受賞エアライン(一部エアラインオブザイヤー等を含む)>

2003、2004年：エアアジア(マレーシア)、2005年：ジェットスター(オーストラリア・メルボルン)、2006年：タイガーエア(シンガポール)、2007、2008年：ジェットスター(オーストラリア・メルボルン)、2009年：エアアラビア(アラブ首長国連邦・シャールジャ)、2010年：タイガーエア(シンガポール)、2011年：インディゴ(インド・グルガオン)、2012年：アズール・ブラジル航空(ブラジル・バルエリ)、2013年：ジェットブルー(米国・ニューヨーク)、2014年：フライドバイ(アラブ首長国連邦・ドバイ)、セブパシフィック航空(フィリピン・マニラ)

<CAPA Centre for Aviationについて>

1990年に設立された航空市場に関する情報・分析およびデータを提供する域内有数の独立系シンクタンクで、本部はオーストラリア・シドニーにあります。創設者であり会長のピーター・ハービソン氏の深い分析力、トレンドを見抜く力、独自の視点や、アナリストなどプロ集団による、航空市場についての幅広い見識が強みとなっています。

<CAPAアビエーション・アワード・フォー・エクセレンスについて>

航空業界において著しい成果を収め、変化の激しい業界の中で積極的に新しい取り組みで業界を牽引するなど存在感を示している航空会社、空港に対して表彰されるもので、2002年に表彰を開始しました。

CAPA は正式名称を「Centre for Asia Pacific Aviation」としており、2011年までは表彰対象をアジア・太平洋地域(中東を含む)のみの航空会社と空港としていましたが、10回目以降となる2012年から全世界に表彰対象を拡大し、2014年からはグローバル(Global)とアジア・太平洋地域(Asia Pacific)に分けて表彰を行っています。

ウェブサイト: [www.flypeach.com](http://www.flypeach.com)

Facebook ページ: [www.facebook.com/peach.aviation](https://www.facebook.com/peach.aviation)

YouTube 公式チャンネル: [www.youtube.com/user/PeachAviation](https://www.youtube.com/user/PeachAviation)